

報道関係各位

2016年8月8日

2017年3月期 第1四半期決算（IFRS） 四半期利益は116億円に大幅改善

株式会社 LIXIL グループ（本社：東京都千代田区、社長：瀬戸欣哉、以下 LIXIL グループ）は本日、2017年3月期第1四半期決算を発表しました。売上高は、事業売却や為替による影響、LIXIL Building Technology（LBT）の本体工事進捗の遅れ等により、前年同期比7%減の4,266億円となりました。また、国内売上高は、前年に実施された政府の省エネ住宅ポイントの終了を受け、特需の反動減が影響しました。一方、海外での LIXIL Water Technology（LWT）の水回り製品の販売や、国内におけるキッチン販売は好調に推移しました。

事業利益については、国内における販売管理費の増加や一部の新品発売の遅れ等により、前年同期比3%減の147億円となりましたが、営業利益は前年同期に一過性損失の計上があったこともあり、145億円と39%の大幅増益となりました。結果、当四半期利益[※]は116億円となり、一過性損失や為替の影響を受けた前年同期の純損失327億円から大幅に改善し、黒字に転換しました。

※親会社の所有者に帰属する四半期利益。

各テクノロジー部門の業績

LIXIL Water Technology（LWT） では、LIXIL、INAX、GROHE、American Standard のグローバルブランドを展開しており、第1四半期売上高は前年同期比4%減の1,507億円となりましたが、為替変動の影響を除く実質ベースでは3%の増収と好調に推移しました。事業利益は35%増の136億円、事業利益率は9%となりました。LWTは海外市場のほぼ全域において、順調な業績でスタートし、中国では高級品の売上が回復したほか、欧州・中東・アフリカ地域では、LIXIL と共同開発したプッシュ水栓技術を採用した GROHE のシャワーシステム「SmartControl」など新商品の売上が好調でした。

また、LIXIL グループは、7月に発表した通り、GROHE Group S.a.r.l およびその関連会社を2016年9月30日付で完全子会社化する予定です。これにより、金融費用の低減を図ります。

LIXIL Housing Technology（LHT） の売上高は前年実施された省エネ住宅ポイント特需の反動による影響を受けましたが、ほぼ想定通りに推移し、前年同期比2%減の1,417億円となりました。事業利益はマーケティング費用の増加から、同17%減の93億円となり、事業利益率は7%でした。

LIXIL Building Technology（LBT） の売上高は前年同期比24%減の589億円となり、事業損失33億円を計上しました。これは、LBT傘下の Permasteelisa グループにおいて、想定外の本体工事の遅れが発生したことや、前期末に上海美特幕墙有限公司を売却したことが影響しています。

LIXIL Kitchen Technology（LKT） の売上高は前年同期比2%増の260億円と好調に推移しましたが、2億円の事業損失となりました。これは、高級品の販売が売上高増加に寄与したものの、マーケティング活動の強化に伴う販売管理費用の増加によるものです。

流通・小売り事業においては、前年の建デゴ事業の分社化の影響から、売上高が前年同期比13%減の440億円となりました。同事業の事業利益については、新店出店費用が増加したため、前年同期比10%減の24億円となり、事業利益率は6%でした。**住宅・サービス事業**では、新築着工件数が増加したことから、売上高が5%増の150億円となりました。事業利益は、販売管理費の増加により10%減の10億円となり、事業利益率は7%でした。

LIXIL グループ社長兼 CEO 瀬戸欣哉のコメント

「当期の業績には、当社が進めている生産体制の最適化やコア事業への集中といった取り組みの成果が反映されています。また、当社では新たな経営管理体制を導入し、国内の経営幹部数を 54%削減するなど、意思決定プロセスの合理化を目指した施策を継続的に推進しています。長期的な価値創造を実現するべく、シナジーの最大化、コンプライアンスの強化、効率的で機動力のあるシンプルな組織の構築、といった基盤固めに今後も注力してまいります」

なお、上半期および通期の業績予想に変更はありません。LIXIL グループの 2017 年度連結業績予想は、売上高 1 兆 8,800 億円、事業利益 730 億円、親会社の所有者に帰属する当期利益 280 億円です。